

第4回長崎県総合計画・総合戦略懇話会（全体会）

日時：令和7年10月9日（木）15：30～16：00

場所：長崎県庁大会議室 B

出席：黒木会長、鶴田副会長、永田委員、安達委員、池田委員、犬束委員、上田委員、植松委員、大久保（栄）委員、大久保（一）委員、大島委員、桑原委員、後藤委員、七種委員、佐藤委員、城委員、田崎委員、豊田委員、原田委員、春田委員、松山委員、山本委員、由井委員  
（Web 出席）矢内委員、山口委員、吉武委員

（事務局）

定刻となりましたので、ただいまより「第4回長崎県総合計画・総合戦略懇話会」の全体会を開催いたします。

委員の皆様におかれましては、各部会での議論、ありがとうございました。

では、ここからの議事につきましては、黒木会長に進行をお願いいたします。

黒木会長

皆さん、こんにちは。第4回長崎県総合計画・総合戦略懇話会 全体会の開催にあたり、ご挨拶を申し上げます。

本懇話会は、新たな総合計画・総合戦略の策定に際し、方向性や取組などについて意見を述べる役割が期待されております。本年1月以降、本日を含め計4回開催いたしました。私たち委員も、長崎県をより良くしたいとの思いで、様々な提案などを行いながら議論を進めてまいりまして、本日が最後の懇話会となります。

ご承知のとおり、現在の長崎県は人口減少や少子高齢化の進行をはじめとした様々な課題を抱えております。一方で、国の地方創生2.0の基本姿勢と同様に、今後は人口減少社会にあっても経済成長を実現し、力強い地域社会を構築していくことが求められております。今回お示しいただいた新たな総合計画案では、こうした様々な課題への対応として、「長崎の誇りと希望を力に、みんなで夢あふれる未来をひらく」という基本理念のもと、10年後を見据えた今後5年間の様々な施策が組み立てられています。

長崎県には、特性あふれる離島や豊かな海洋資源、美しい自然、多様な歴史・文化といった長年受け継がれてきた固有の魅力があります。それに加え、西九州新幹線や長崎スタジアムシティの開業による賑わいの創出や“絆”特区指定により地域課題解決に繋がる新技術実装への取組など、新たな強みも生まれています。

大石知事におかれましては、県民みんなが誇りを持って本県に住み続けたいと思えるよう、庁内の関係部局間はもちろんのこと、県民や地域、企業、市町等様々な主体との連携・協働のもと、新たな総合計画の基本理念の実現に向けた取組を積極的に進めていただきたいということを切に願ひまして、ご挨拶とさせていただきます。

黒木会長

それでは、今後の懇話会運営について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

それでは、今後の懇話会の運営についてご説明させていただきます。お手元の懇話会次第の資料、3 ページ目をご覧ください。

本日の審議をもって、次期総合計画・総合戦略の策定に関する懇話会での議論は一区切りとなります。ただし、次期総合計画は「まち・ひと・しごと創生法」に基づく地方版総合戦略としても位置づけており、今後は、計画と戦略を一体的に取り組んでいくことになります。そのため、次の4 ページ目に記載しております「長崎県総合計画・総合戦略懇話会開催要綱」の第2 条第4 項に基づき、令和9 年度から令和13 年度までの間、年1 回程度、地方創生に関する取組の効果検証をこの懇話会で行っていくことになり、皆様の委員としての任期も同期間となります。

加えて、国の「新しい地方経済・生活環境創生交付金」の第2 世代交付金を活用した事業構築についても、委員の皆さまから専門的な視点でご意見をいただきたいと思いますと考えております。こうした効果検証や事業構築に関する議論が、より効果的・効率的になるよう、毎年度、テーマを設定したうえで、現在の3 部会33 名の委員のうち、テーマに関連する専門分野の委員の方々を中心に、10 名程度の皆さまにお集まりいただく形で意見交換会を進めていきたいと考えています。よって顔ぶれは毎回変わることとなると思われます。次の開催まで少し間が空きますが、初回の意見交換は令和9 年度の秋頃を考えております。

また、計画期間中に社会経済情勢などが変化する可能性もあるため、計画の中間見直しを行う可能性があります。計画の内容に関わる見直しの際には、同じく開催要綱の第2 条第3 項に基づき、改めて委員の皆さまにお集まりいただき、ご審議をお願いする予定です。

以上が、今後の懇話会の運営に関するご説明となります。ご不明な点やご意見がございましたら、どうぞ遠慮なくお知らせください。

部会長報告

黒木会長

ありがとうございました。

続きまして、各部会長から、これまでの議論の総括を含め、各部会における意見のご報告をいたします。

はじめに、こども・くらし部会の永田部会長、お願いいたします。

永田部会長

こども・くらし部会のこれまでの議論について、ご報告いたします。

こども・くらし部会は、結婚・妊娠・出産、子育てをはじめ教育、医療・介護の充実、男女共同参画、多文化共生など県民の暮らしに密接に関わる分野を対象としており、毎回非常に活発な議論が行われました。

まず、「こども」の柱においては、10 年後のめざす姿や基本戦略の表現について、こどもが将来の夢を描けるような前向きな言葉を用いてほしいという意見がありました。また、子育ての楽しさを伝える表現があるべきといった意見を最初の懇話会でいただきました。これらの点は十分に反映いただいたものと考えております。

次に、結婚、妊娠・出産、子育ての切れ目ない支援については、県民の希望を実現するための機運醸成、こども時間を確保できるよう職場環境の整備、こどもの貧困対策、障害のあるこどもへの支援の充実などに関する意見が挙げられました。

教育分野については、こどもの学力向上はもちろんのこと、ふるさと教育の推進、学校に通えないこどもへの支援、学校以外の機関との連携の重要性を訴える意見がありました。

「くらし」の分野では、医療・介護分野において、地域包括ケアシステムの一層の充実が求められています。加えて、長崎の特徴として離島や僻地があることから、診療科や医療資源の偏在・減少が課題として挙げられました。これに対して、AI や ICT などの技術を活用した対策の発展を期待する意見も出されました。

また、多様性の尊重という観点から、共生社会の実現に向けて、男女共同参画やアンコンシャス・バイアスの解消のための教育、夫婦間での家事・育児の負担の平準化などに関する意見が挙げられました。

長崎ならではの海外との交流を活かし、多文化共生の先進モデルとなることへの期待もあり、外国人子育て世帯への支援の必要性も指摘されました。

最後に、「安心して生活できる社会」については、他の部会とも重なる部分があるかと思いますが、犯罪や災害への安全対策についても意見が挙げられました。

以上のように、子供たちが将来に希望を持ち、多様な選択と活躍が可能な社会、そして誰もが自分らしく健康で安心して生き生きと暮らせる社会の実現に向けて取り組んでいただきたいというのが、部会の一貫した意見であります。

最後に、本日の会で示された素晴らしい計画については、今後の実行に対する期待と、懸念のような率直な意見も出されました。そのためにも、県民の方々に対して、県がしっかりと計画を提示し、上意下達ではなく、面と向かって伝える場を設けることで、実効性のあるものにしていただきたいというのが、部会で挙げられた意見のまとめとなります。

こども・くらし部会からの報告は、以上です。

#### 黒木会長

ありがとうございました。

続いて、しごと部会の鶴田部会長よろしくお願いします。

#### 鶴田副会長（部会長）

しごと部会の鶴田でございます。よろしくお願いいたします。

しごと部会におきましては、これまで基幹産業や中小・小規模事業者の振興、そして現在課題となっている人材の確保・育成の問題、外国人を含めた人材に関する議論、さらに農林水産業の振興などについて、非常に活発な議論を行ってまいりました。かいつまんで、3 点に分けてご報告いたします。

1 点目：中小・小規模事業者の振興について。こちらは多くの意見をいただきました。特に、デジタル技術の活用や、本県ならではの特区の活用についての議論がありました。また、誘致企業との連携による基盤強化も重点課題として挙げられました。その中で、「稼ぐ力」の成果をどう測るかという点について、KPI に関する議論も行われたことが特徴的だったと思っております。

2 点目：人材に関する課題について。企業の人材育成・確保に関しては、県内企業によるインターンシップの推進、新卒に限らず中途採用や UI ターンによる就職支援、理工系女子学生の活躍の場の拡大、リスキリングやキャリアアップなど、様々な取組を企業とともに進めていく必要があるという意見が出されました。また、外国人労働者についても議論があり、「しごと」だけでなく家庭やこどもを含む生活支援体制の充実など、横断的な支援体制の構築が必要ではないかという意見もいただきました。

3 点目：農林水産業の振興について。当初、基本戦略のタイトルは「持続可能な魅力ある一次産業の創出」とされていましたが、委員の皆様から「一次産業」ではなく「農林水産業」にしっかりフォーカスすべきとの意見がありました。また、「創出」に加えて既存の産業を伸ばすべきとの意見もあり、「魅力ある持続的な農林水産業を育てる」という名称に変更されました。水産業においては、藻場の喪失や海水温の上昇などの環境変化に対応した漁協・事業者の経営基盤の強化、小規模経営体の支援、普及啓発に関する意見が出されました。農林業に関しては、気候変動への対応として新技術や新商品の開発、農業法人化の推進、安定した営農に向けた生産基盤の整備、新規就農者の確保など、幅広い意見が寄せられました。

いずれにしても、委員の皆様の視点には一貫して「若者の視点」がありました。また、「長崎らしさ」という地域の強みをいかに伸ばしていくかという点、そして「つながり」の重要性、すなわち民間・個人・県民・行政が連携して推進していくという視点が共有されました。

この 3 つの視点を持って、計画をしっかりと進めていきたいと思っております。本当に長崎を愛する皆様の声が詰まった提言をさせていただけたと感じております。いずれにしても、素晴らしい計画です。ぜひ皆さんと一緒に進めていければと思います。

以上でございます。

黒木会長（部会長）

ありがとうございました。

最後に、にぎわい・まち部会について、私の方からご報告いたします。

にぎわい・まち部会におきましては、多様な視点から議論が出されまして、観光振興、食のにぎわい創出、UI ターンの促進やデジタル企業の誘致、防災対策、地域公共交通などに関する議論を進めてまいりました。

そこで、5 つの視点について報告いたします。

まず、食のにぎわい創出につきましては、庁内の部局・課をはじめ、市町や企業・団体との連携の必要性に関する意見のほか、朝食に特化した宿泊客誘致といったアイデアをいただきました。

次に、UI ターンの促進についてですが、移住には仕事や住まい、子育てなど様々な要素が絡んできます。そこで、「こども」、「しごと」、他の部会・柱の施策との連携が必要との意見をいただきました。

防災対策につきましては、自然災害だけでなく、原子力災害や武力攻撃などの有事に対して、ハード・ソフト両面での備えに関するご意見がありました。事前に訓練内容を知らせないブラインド型訓練の導入、あるいは観光客など県民以外の滞在客の安全確保に関するご提案もいただきました。

地域公共交通につきましては、運転手の不足や利用者数の減少を前提とした地域公共交通の維持の重要性のほか、ライドシェアの導入に関するご意見をいただきました。

その他、西九州新幹線の全線フル規格の実現に向けた県内外への情報発信に関するご意見をいただくなど、幅広い分野で議論をしております。

そして、本日の懇話会部会におきましては、離島振興、そして人口減少や交流人口に関する議論を改めて検討したところでございます。

さらには、今回すばらしい総合計画案を県の方にご準備いただいたところですが、今後はこれをいかに県民の皆様によりわかりやすく浸透させていくかということが大きな課題になるだろうという提言とともに、今後はこの計画を県民の皆様とともに育てていくということが必要になってまいります。そういう意味では、いかに県民の皆さんを巻き込んでいくかという仕掛け、施策ということも今後重要になってくるだろうというご提言もいただきました。

今後とも、歴史や文化、自然環境や食など、長崎が持つ多様な資源を生かして、国内外から多くの観光客が集う活力あふれる社会、また、災害から県民の生命や財産を守り、快適で安全・安心な暮らしを送ることができるよう、魅力あふれる地域づくりに取り組んでいきたいと考えているところでございます。

にぎわい・まち部会からの報告は、以上となります。

#### 黒木会長

県におかれましては、これまでの懇話会で出された意見を十分踏まえていただきながら、最終的な計画策定を行っていただきたいと思います。

総合計画策定にかかる懇話会は今回が最後になりますが、委員の皆さまにご協力いただき、無事、懇話会として今後の長崎県政に一定の方向性を示すことが出来たのではないかと思います。心より感謝いたします。ありがとうございました。

今後、力強い長崎県の実現に向けて、計画を着実に推進していただきますようお願い申し上げます。

以上を持ちまして、本懇話会のまとめといたします。

以後の進行については、事務局に引き継ぎます。

#### （事務局）

黒木会長、ありがとうございました。

それでは、最後に大石知事からお礼のご挨拶を申し上げます。

#### 知事挨拶

##### 知事

皆さん、こんにちは。本日は第4回目の懇話会の開催となりましたが、これまでご尽力いただいた黒木会長、鶴田副会長、そして皆さま方に、心より感謝申し上げます。

私はこの総合計画の策定にあたり、初回の懇話会でも申し上げましたが、何よりも「県民の皆さまが、自分のふるさとを誇りに思える場所にしたい」という思いを大切にしております。

この4回の議論を通じて、私自身も報告を受けたり、意見を述べさせていただいたりしながら、皆さまとともに計画を作り上げてまいりました。皆さまのお力添えのおかげで、非常に素晴らしい内容になったのではないかと感じております。

これまでの総合計画も、それぞれの時代の状況に応じて必要な要素が盛り込まれた、非常に意義のあるものでございましたが、今回の計画は、よりチャレンジングで野心的な内容となっており、新しい視点も数多く取り入れていただいたと受け止めております。まさに、これから新しい時代が長崎県で生まれてくるのではないかと、大きな期待とワクワク感を持っております。

この計画をしっかりと完成させ、黒木会長がおっしゃったように、皆で新しい長崎県を築いていくためには、県民の皆さまにしっかりとお伝えし、自分事として関わっていただける環境を整えることが重要であると考えております。

県といたしましても、全部局が力を合わせて取り組んでまいりますし、県だけでなく、関係団体、そして県民お一人おひとりが思いを共有し、同じ方向を向いて進めていけるよう、努力してまいります。

また、皆さまからは具体的なご意見も頂戴いたしました。先ほどの、伝わりやすさを意識した言葉遣いへのご配慮や、KPIに関するご指摘も、今後数年後には「なぜこのKPIを設定したのか」といった議論につながっていく可能性がございます。

それでもなお、このKPIを達成することで、私たちが目指す方向に近づいていけるというイメージを持って設定できたのではないかと考えております。今のこの哲学をしっかりと受け継ぎ、KPIの達成を念頭に置きながら、今後の取り組みを進めてまいります。

私自身も、今回皆さまと詳細な議論を重ね、地域に出向いて意見交換を行う中で、自分では気づけなかったことや新たに教えていただいたことが数多くございました。改めて、対話の重要性を強く認識した次第でございます。

懇話会としては今回でひとまず一区切りとなりますが、事務局からもお話がございましたように、今後の評価・検証の段階で、皆さまからご意見を頂戴する機会がございます。ぜひ引き続き、長崎県政が皆さまの議論された方向に進んでいけるよう、ご指導賜れますと幸いです。

私自身も、計画をしっかりと完成させられるよう、引き続き努力してまいりますので、今後とも皆さまからのご支援をよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、改めまして黒木会長、鶴田副会長、そして皆さま方に心より感謝申し上げますとともに、皆さまお一人おひとりが何よりも健康で、ますますご活躍されますことを心よりお祈り申し上げまして、私からのご挨拶とさせていただきます。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

#### （事務局）

ありがとうございました。

これもちまして、第4回長崎県総合計画・総合戦略懇話会 全体会を閉会いたします。